

番号	課名	グループ名
C - 4	高齢者支援課	高齢者支援

事務事業名	在宅高齢者住宅改造助成事業						新規・継続	継続		
							ソフト・ハード	ソフト		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-4-10	生活の安定と自立への支援							
	関連施策名 (施策コード)	I-1-2	身体と心の健康づくり							
		I-3-8	介護保険制度の円滑な運営							
基本項目	事業内容 (経緯)	在宅高齢者のいる家庭では、住宅設備がバリアフリー化されていない家庭が多く、本人の日常生活動作の妨げとなったり、介護者の負担となっていることがあります。高齢者が在宅で生活していくための住宅改造が必要と認められた世帯に住宅改造費用(上限額60万円)の2/3を助成する事業です。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	相談件数	単年度相談件数	件	11	8	5	10	10
		②								
	③									
④										
事業対象	住宅改造が必要な在宅高齢者	成果	高齢者の住みやすい環境をつくることで、自宅で安心・安全な生活を送ることができました。 平成28年度助成件数：9件							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	助成件数	単年度助成件数	件	11	8	5	9	10		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	2,422			1,211			1,211

評価の視点	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	理由
		B A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	在宅高齢者が生活していくうえでの不安要素である段差による転倒や、風呂・トイレ等での膝、腰等への負担を取り除き、生活環境を向上させる必要がある点からも必要性は高いといえる。ただし、現行の方法では、申請から交付決定まで時間がかかってしまうため、早急に改造が必要な方が利用しづらいという点があげられます。
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	自宅の改造であるため、個人の身体状況に依りて的確に施設改善ができ、有効性は高いと認められます。
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	より効率的な改造工事にするため、事前の調査を徹底することにより、必要以上の工事を抑制することができました。

事業の問題・課題	潜在的な住宅改造希望者は多いと思われませんが、県と市の共同事業であるため、必ずしも希望どおりの対応ができるわけではありません。また、申請から補助決定通知(県)まで数カ月の期間を要することが、早急な改造を求める申請者のニーズに添わないことも今後の課題になると思われま。
前年度の改善案	引き続き、慎重な事前調査や指導により、小さな費用(改造費)で大きな効果が得られるよう努力します。
具体的な改善案	引き続き、慎重な事前調査や指導により、小さな費用(改造費)で大きな効果が得られるよう努力します。

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	独居高齢者等の在宅での生活を支援する住宅改造助成事業は重要ですが、募集期間が限られているため、市民への周知方法、利用方法について引き続き検討していく必要があります。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
C - 5	高齢者支援課	高齢者支援グループ

事務事業名	はり・きゅう・あんま施術料助成事業						新規・継続 ソフト・ハード	継続 ソフト	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-3-7	高齢者の生きがいづくりへの支援						
	関連施策名 (施策コード)	I-1-2 I-1-3	身体と心の健康づくり 医療・保健・福祉の連携						
事業内容 (経緯)	臼杵市に住所を有し、かつ年齢が満70歳以上の高齢者が市指定のはり・きゅう及びあんまの施設を利用して負担する経費の助成を行っています。施術料の助成は1回につき600円とし、24枚の助成券綴を交付しています。								
基本項目 行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
				H25	H26	H27			
	①	利用者数	助成券の申請者 (交付者枚数)	人	747	829	867	764	
	②	施術券利用回数	年間施術券使用回数	回	7,042	8,127	8,100	7,118	
	③								
	④								
事業対象	年齢満70歳以上の市民	成果	助成券を交付することにより、経済的負担を軽減でき、継続して施術を受けることで健康保持・増進を図ることができました。 平成28年度利用者人数：764人 施術利用回数：7,118回						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
				H25	H26	H27			
	臼杵市在住70歳以上高齢者の利用率	補助対象である臼杵市在住満70歳以上高齢者のうち利用者の割合	%	7	8	8	6		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,960					4,361	599

評価の視点	評価	判断基準		理由	
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か A A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	高齢者にとっては経済的負担を軽減でき、また、健康保持・医療費の抑制の面からも必要性は高いと思われます。		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか B A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない	施設からの申請により指定するため、利用できない施設もあります。 また、1年間で24枚では足りない方もいます。		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか B A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	申請から助成券発行までは、窓口で即時発行しているので、効率的に行うことができます。 また、利用者が固定化しないよう、広く周知する必要があります。			
事業の問題・課題	年間の助成券を24枚とし、利用者の負担軽減につながっていますが70歳以上高齢者の利用率が低い状況です。				
前年度の改善案	引き続き、市報等で定期的に広報したり、各鍼灸院に70歳以上の方が見えたときに事業について説明してもらいます。また、70歳以上の方が参加する教室等で事業について説明します。				
具体的な改善案	引き続き市報やホームページ等で定期的に広報したり、各鍼灸院に70歳以上の方が見えたときに事業について説明してもらいます。また、70歳以上の方が参加する教室等で事業について説明します。				

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	高齢者の健康保持に対して経済的負担を軽減できる点では有効ではありますが、利用者が固定化している点は依然として検討課題となっています。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
C - 6	高齢者支援課	高齢者支援

事務事業名	老人憩の家等改修事業						新規・継続	継続		
							ソフト・ハード	ハード		
総合計画との関連	主要施策名(施策コード)	I-3-7	高齢者の生きがいづくりへの支援							
	関連施策名(施策コード)	I-1-2	身体と心の健康づくり							
		II-5-11	地域内交流・地域間連携							
事業内容(経緯)	各自治区からの改修要望に基づき、高齢者が利用しやすい施設とするためバリアフリー化や老朽化した箇所の改修について、市が設置した24箇所の「老人憩の家」については直接工事を、また各自治会が所有する集会所及び公民館等については補助金交付を行います。これにより、高齢者が安心して利用できる施設となり高齢者の利用促進により心身の健康増進を図ります。									
基本項目	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値	
					H25	H26	H27			
		①	施設の改修数	老人憩の家等(公民館・地区集会所含む)の修繕箇所数	箇所	10	9	9	11	10
		②	改修要望件数	各地区からの改修要望件数	件	14	18	24	24	10
	③	改修実施率	改修要望に対する改修実施率	%	71	50	37	46	100	
	④									
事業対象	各自治会		成果	高齢者の利用しやすい施設環境を整備することができ、施設利用の促進、有効活用が図られました。 平成28年度施設改修実施件数：11件						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28実績値	H31計画値		
				H25	H26	H27				
	施設の利用日数	老人憩の家利用日数(全施設の平均値)	日	95	95	85	85	100		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	9,852					9,851	1

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		高齢化が進む中、憩の家を含めた地区集会所については、改修、維持費用の地区捻出が厳しくなっており、改修工事の要望は多くあります。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		高齢者の集いの場としてだけでなく、介護予防教室の場としても活用されています。一方で各施設とも世代間の交流を促進することが望まれます。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		効率的な運営管理は少ない経費でできていますが、近年、施設の老朽化に伴い予算額以上に改修等の依頼が多く寄せられています。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	建築後20年以上経た施設・設備が多く、また、高齢化により集会所の維持管理が難しくなっているため、改修工事が必要な案件が増えてきています。			
前年度の改善案	老朽化の著しい箇所や利用者にとって危険度の高い箇所から優先的に改修を行います。			
具体的な改善案	引き続き、老朽化の著しい箇所や利用者にとって危険度の高い箇所から優先的に改修を行います。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	老人憩の家や地区集会所は、高齢者の健康教室や交流の場としても利用されていますが、高齢化により維持管理が難しくなっている現状があります。改修工事支援に対する要望は多く、高齢者が利用しやすくなるための改修工事を今後も実施していく必要性は高いと思います。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
C - 7	高齢者支援課	高齢者支援

事務事業名	安生寮整備事業						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ハード			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-4-10	生活の安定と自立への支援							
	関連施策名 (施策コード)	VI-18-43 I-1-3	快適な住環境の確保 医療・保健・福祉の連携							
基本項目	事業内容 (経緯)	老人福祉法第15条第3項に基づき設置された養護老人ホーム臼杵市安生寮について、建築から26年を経過していることから、随所に改修の必要があるところが現れてきています。施設の適切な改修及び営繕を行うことにより、被措置入所者が安全かつ快適に生活することが期待できます。通常の施設維持に必要な改修のみでなく、指定管理者の意見を取り入れ、入所者が実際に必要としている改修を行うため、H28年度は空調設備工事や、防犯設備の設置を行いました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	施設の改修箇所数	年度中に発注した修繕・工事箇所数	箇所	9	6	7	9	
		②								
③										
④										
事業対象	入所者	成果	施設の適切な管理運営、入所者の安定した生活が図られ、老人福祉法における福祉の措置を適切に実施できます。 平成28年度施設改修箇所 食堂及び事務室空調設備改修工事 防犯設備設置工事 加圧給水ポンプ改修工事							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,041						7,041

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		H28年度中の養護申請者は21名であるが、判定委員会で対象になってもすぐに入所できず、待機となることが多少見られることがありました。
		B	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		施設改修を行うことで、養護の必要な入所者の心身の健康の保持及び生活の安定を確保するという措置の目的に沿った、事業効果を得ることが出来ました。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		効率的な運営管理はできていますが、近年、施設の老朽化等により、修繕工事費用が増加しています。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	建築後26年経過しているため、改修工事案件が増えてきています。また、エレベータがないため、2階利用が困難な入所希望者がなかなか入所できず待機となることがあります。			
前年度の改善案	老朽化の著しい箇所や利用者にとって危険度の高い箇所から優先的に改修を行います。			
具体的な改善案	引き続き、衛生、安全面を優先に、老朽化の著しい箇所から優先的に改修を行います。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	建築後26年が経過したため、入所者の安全面や住環境を考慮し、修繕箇所が増えることはやむを得ないと思いますが、最少経費での施工を考える必要があります。
------	---------------	----	--

番号	課名	グループ名
C - 8	高齢者支援課	介護保険グループ

事務事業名		介護施設整備事業					新規・継続	新規	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-3-8	介護保険制度の円滑な運営					ソフト・ハード	
	関連施策名 (施策コード)	VII-21-52	防犯・見守り体制の充実						
		IV-10-21	雇用の確保・就労支援						
基本項目	事業内容 (経緯)	厚生労働省の地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金及び地域介護・福祉空間整備推進交付金を活用し、介護ロボットの導入支援と高齢者入居施設の防犯対策強化を行います。 将来的な介護人材不足に対する解決策の一つとして様々な介護ロボットが開発されています。これらの介護ロボットの普及促進を図るため、導入を希望する介護保険サービス事業所に対して補助を行いました。また、障害者や高齢者といった社会的弱者の生活する施設に対する防犯対策の必要性の高まりを受け、高齢者の入居する施設に対し防犯カメラ等の設置に係る費用の一部を補助しました。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値
					H25	H26	H27		
		① 介護ロボット導入事業所の定員	グループホーム定員18名 看多機定員 25名 老健定員 86名	人				129	
		② 防犯対策補助事業所の定員	養護60名、特養118名、老健236名、有料60名、看多機25名	人				499	
		③							
	④								
事業対象	介護サービス事業所	成果	介護ロボットを導入した3事業所、防犯対策を行った8施設において介護職員の負担軽減につながりました。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
				H25	H26	H27			
	防犯対策補助事業所数	事業所の防犯対策事業を実施した数	件				9件		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	7,749		7,169				580

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		介護ロボットはまだまだ発展途上の段階であり価格が高いため、今回の補助内容(1事業所当たり927千円を上限)では購入に踏み切れない事業所がありました。防犯対策については、防犯カメラ等の設置により施設職員の負担減や入所者、その家族の安心につながります。
		B	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		介護ロボットを導入した事業所については、今後長期的にその効果と有用性について検証を行います。防犯設備の整備によって、夜間当直勤務者の精神的な不安を軽減できました。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		介護事業所の人材確保については課題となっています。介護ロボットや防犯対策により職員が介護に集中できる環境になりつつあります。しかし、介護ロボットは大変高価なものであり、今後普及していくためには行政の後押しが必要と思われます。将来的に価格の低廉化が進めば、質の高い介護サービスを効率よく提供するために有効な手段になりうると見込まれます。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題				
前年度の改善案				
具体的な改善案				

課長評価	事業目的達成による完了・完了予定(完了)	理由	介護人材不足の解消と介護職員の労働環境改善に向け、国の補助制度を活用した介護ロボット等の普及促進を推進しました。
------	----------------------	----	--

番号	課名	グループ名
C - 9	高齢者支援課	高齢者支援グループ

事務事業名		配食サービス事業（地域自立生活支援事業）					新規・継続	継続	
							ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-3-7	高齢者の生きがいづくりへの支援						
	関連施策名 (施策コード)	I-1-1	安心安全で健康な「食」の推進						
基本項目	事業内容 (経緯)	高齢者及び身体障がい者が住み慣れた自宅で自立した生活を継続していけるよう、地域自立生活支援事業として配食サービスを行いました。これは概ね60歳以上高齢者のひとり暮らしや、高齢者のみの世帯、身体障がい者のみの世帯で、調理を行うことが困難な方に、栄養バランスのとれた食事を自宅に届ける（週3回の利用可能）ことで、栄養改善を図るとともに安否確認を行う事業です。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値
					H25	H26	H27		
		① 配食提供数	年間に配食を提供した数	食	16,651	15,665	15,902	15,042	14,900
		② 配食実施人数	当該年度末に利用している人数	人	132	141	133	112	110
		③ 新規に申請した人数	当該年度中に新規に申請した人数	人	60	52	61	47	45
	④ 配食をやめた人数	当該年度中に配食をやめた人数	人	19	29	18	21	20	
事業対象	配食サービス利用希望者	成果	栄養バランスのとれた食事を自宅に届けることで、栄養改善と安否確認を行うことができました。 平成28年度配食提供数：15,042食						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
				H25	H26	H27			
	配食提供者数	1か月に配食を利用した人数	人	132	146	130	125	130	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	6,136		939	468			4,729

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	B A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	安否確認や栄養バランスのとれた食事の提供による栄養改善、また食事作りの負担軽減がなされるなど、在宅での自立生活を支援するための必要性は高いと思われます。しかし、周辺部でサービスが利用できない地区も一部あります。
		目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		
効率性	行政資源量（特にコスト）に対し合った効果があるか	B A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない	高齢者の在宅自立生活支援の観点から、効率性は高いと思われますが、利用者のニーズ（減塩食、刻み食等）に対応できない場合があります。	
事業の問題・課題	各地区で配達業者を分けていますが、業者によっては普通食のみの取り扱いの所もあり、糖尿病食や減塩食がないがために、サービスを受けられないという方がいらっしゃいます。また、高齢者のみの世帯、独居の方が増えている中で、このサービスを知らないという方も多くいらっしゃいます。			
前年度の改善案	引き続き、介護保険サービス事業者、民生委員等にも機会があるごとに周知に努めます。			
具体的な改善案	引き続き、介護保険サービス事業者、民生委員等にも機会があるごとに周知に努めていきます。			

課長評価	現状のまま継続する（継続）	理由	高齢者の栄養改善や安否確認を目的とした配食サービスは有効性が高いと考えられますが、配食頻度や事業者などについて、利用者のニーズに添うものとなるよう引き続き検討を要します。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
C - 10	高齢者支援課	高齢者支援グループ

事務事業名		元気アップ通所事業・自立支援訪問事業						新規・継続	継続	
								ソフト・ハード	ソフト	
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-3-7	高齢者の生きがいづくりへの支援							
	関連施策名 (施策コード)									
基本項目	事業内容 (経緯)	<p>元気アップ通所事業・・・介護保険の適用を受けていない閉じこもりがちな高齢者に対し、交流の場を提供することによって、生きがいと社会参加を促進するとともに、自立生活の助長、社会的孤立感の解消及び要介護状態になることの予防を図ります。</p> <p>自立支援訪問事業・・・自立支援にむけた訪問介護サービスを提供することにより、在宅のひとり暮らし高齢者等の自立した生活の継続を可能にするとともに、要介護状態への進行を防止します。</p>								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	元気アップ通所事業参加者数 (実人数)	申請し、利用を開始した人数	人		24	16	15	20
		②	自立支援訪問事業参加者数 (実人数)	申請し、利用を開始した人数	人		1	0	0	6
③										
④										
事業対象	65歳以上で介護保険の適用を受けておらず、サービスが必要と判断された人	成果	<p>介護予防につながるるとともに、介護保険の認定率の抑制を図ります。</p> <p>平成28年度参加者数：15人</p>							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	元気アップ卒業人数	前年度からの卒業人数	人			0	0	2		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	2,794						2,794

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		介護保険の適用はないが閉じこもりがちで人と交流する機会が少ない高齢者に対して、廃用や認知症の予防をすることが必要です。また、食事や排せつなどの日常生活動作は自立しているが洗濯や掃除等に障がある高齢者が在宅で生活する支援となります。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		閉じこもりがちな高齢者が外出し、体操や交流をするきっかけとなり、介護保険サービスを利用していない高齢者の介護予防となっています。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		通所介護事業所や訪問介護事業所に市の定めた基準で委託することで、介護サービスより低い単価で実施できています。	
	A	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	介護サービスを利用していない高齢者の介護予防として実施しているが、今後は併せて地域での活動の場も充実させる必要があります。			
前年度の改善案	新しい総合事業の移行に伴い、サービスの多様化をはかります。			
具体的な改善案	身体状況の改善で要支援や総合事業の対象外となった方等が、更なる心身状況の自立を図り、地域での活動へと繋げていけるように地域のサービスの多様化をはかります。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	自立しているが、閉じこもりがちで人と交流する機会が少ない高齢者に、廃用や認知症の予防をすることにより、高齢者の介護予防と在宅支援を行う本事業は重要です。
------	---------------	----	--